

令和6年度 学校評価報告書

【国立市立国立第一小学校】

学校教育目標			自分で考え　すすんで活動する子　力を合わせて　高め合う子　思いきり体を動かし　元気な子				重点目標　自分で考え　すすんで活動する子	
学校教育目標	中期的目標	短期的目標	評価指標	達成状況		評価	分析・改善策	学校関係者評価
				中間評価	最終評価			
自分で考えすすんで活動する子	基礎・基本となる内容の確実な定着と、主体的に学習に取り組む児童を育てる。	教師の学習指導力を高めることを通して児童の学びへの意欲を高めるとともに、基礎・基本の定着を図る。（研推）	・教員アンケートにおける肯定的評価 ・児童アンケート＜国語・理科（生活）・体育＞における肯定的評価 ・保護者アンケートにおける「分かる授業」「楽しい、意欲的に取り組める授業」の肯定的評価	B	B	・前期・後期の教員アンケートにおいて、肯定的な評価が90％以上だった。 ・児童アンケートにおいて、自分の考えをもつことができているが、理由も言えて積極的に伝える項目が、80％以下になった。 ・保護者アンケートにおいて、「楽しい・意欲的に取り組める」、「対話を通じて意見交流をしている」の項目は80％以上、「分かる授業」が79％だった。	校内研究における、日々の教材研究や授業検討に取り組み、児童が自分の考えをもち、意見を活発に交流し合える工夫をしているが、理由も添えてというところに課題がみられた。交流や発表での成功体験を積んでいく。また、児童が「分かる授業」の実施に向けて、教材研究を行う。具体的には「視覚的に」「体験的に」「必要感のある内容で」の3点について重点的に取り組んでいく。授業参観・学校公開等で保護者・地域の方にも「分かりやすい授業」の実践を伝えていく。	・全体として落ち着いて授業を受けている。 ・授業で分からないことをその場で検索した上で意見を言っていた。一人一台端末の有効な使い方ができている。理由を何かしらの形で表現することをきっかけに、それを言葉で伝えられるようになるとうい。 ・道徳授業では、難しいテーマに取り組んでいた。レベルの高い指導が行われている。 ・アンケートの結果から把握した課題を、次の計画に生かすことが大切である。
		開かれた学校を目指し、地域の教育力を生かす教育活動を展開する。（教務）	・保護者アンケートにおける3項目での肯定的評価 ・教員アンケートにおける「積極的に公開し、理解と協力を得ている」の肯定的評価 ・全学年で年間1回以上の地域の題材や外部人材を活用した授業の実施 ・保護者アンケートにおける「学校はPTA行事、地域の活動に協力的である」の肯定的評価 ・教員アンケートにおける「児童が地域のよさを実感」の肯定的評価	A	A	・保護者アンケート11項目中7項目(前期)→9項目(後期)で肯定的評価 ・教員アンケート「積極的に公開し、理解と協力を得ている」肯定的評価100％ ・全学年で地域題材・外部人材を活用した授業を実施した。 ・保護者アンケートにおける「学校はPTA行事、地域の活動に協力的である」の肯定的評価81％（前期）→91％（後期） ・教員アンケートにおける「児童が地域のよさを実感」の肯定的評価100％	・年間を通して公開授業の形態を工夫することで、児童の様々な姿を参観してもらうことができた。配信の日常化により、多くの家庭に安定して情報が行き渡るようにした。年2回のアンケートの意義を強調して依頼することにより、後期の回収率も上がった。 ・地域人材、教材を多岐にわたって活用し、保護者にも周知することができた。 ・児童が地域の一員であることを実感できるような活動を、「ふるさと谷保プロジェクト」を中心に国立第一小学校の伝統として引き継いでいく。コミュニティスクール実施に向けて教育環境を整えていく。	・子供から発信することの地域への影響力は、とても大きい。学校・保護者・地域で大切に育て、子供たちが地域に対する誇りを感じられるようにしたい。 ・「すくー」を中心とした学校からの情報配信によって、地域にも情報が入るようになってよい。 ・学校通信の校長の言葉は、大人の心にも残る内容であった。
力を合わせて高め合う子	自己肯定感をもち、友達と互いに磨き合い高め合う心を育てる。	人との関わりを大切にした教育活動を展開する。（特活）	・児童の振り返りにおける「にこにこ活動・クラブ活動・委員会活動・学校行事等で他学年と交流することが楽しい」の肯定的評価 ・教員アンケートにおける『にこにこ活動の充実』の肯定的評価	A	A	・にこにこ活動の振り返り、委員会活動、クラブ活動の振り返りシートでも肯定的評価が高かった。 ・教員アンケートにおける「にこにこ活動の充実」「クラブ活動・委員会活動の実施」いずれも肯定的評価100％	・にこにこ活動では、毎回活動の最後に振り返りの時間を取り入れている。そこでは、次回の活動でやりたいことなど、児童の意見を取り入れるようにしている。 ・いずれの活動でも上学年が下学年を主体的にリードできる時間や場を確保することで、主体性や責任感を養っている。	・展覧会は子供たちの個性が表れていて素晴らしかった。自分の子供にもう一度受けさせたいくらい、よい教育をしていると感じた。 ・他学年と一緒に登下校する姿が多く見られるのは、にこにこ活動等の成果である。
			・日常及び学校行事における学年交流の充実 ・1、2年生との「なかよくなろう集会」「もっとなかよくなろう集会」での互いの理解する姿やすすんで関わろうとする姿（観察） ・教員アンケート「特別支援学級との交流等」の肯定的評価	A	A	・1、2年生を中心に特別支援学級との交流は年間を通して計画的に行われている。 ・教員アンケート「特別支援学級と通常学級との交流」では、いずれも肯定的評価100％	・年3回の交流学习検討委員会で、情報交換することで、児童同士のよりよい関係を築いている。また、教職員間でその都度交流の方法を検討し、児童の実態や成長に合わせて柔軟に実施することができている。	
		互いの生命、人格を尊重した人権教育を推進し、豊かな人間性を育む。（生活）	・教員アンケートにおける「道徳授業の充実」の肯定的評価 ・保護者アンケートにおけるいじめへの学校の対応についての肯定的評価 ・保護者アンケートにおける「あいさつ」、「きまりを守る」「言葉遣い」ともに肯定的評価	B	A	・教員アンケート肯定評価100％ ・保護者アンケート肯定評価84％ ・保護者アンケート肯定評価 あいさつ85％きまり86％　言葉遣い58％	・ふれあい月間の充実により人権感覚に対する学校全体の意識が高まり、多様性を尊重する児童の育成が図られている。 ・情報共有の徹底と毎週のいじめ対策委員会開催が迅速な対応につながった。 ・来年度は、生活指導で評価する言葉遣いの指標を「場に応じた言葉遣い」に変更する。学校全体で意識して指導し、分析・改善を行う。	・広がって歩くなど、道路歩行で危険な場合がある。にこにこ活動で高学年から安全について教える機会を作ってはどうか。 ・課題に対する次年度に向けての改善策や計画が立てられていてよい。 ・言葉遣いについてはある程度許容しつつ、家庭への啓発を進めたい。
思い切り体を動かし元気な子	自己の最善を尽くし、運動する喜びを味わう体を育てる。	健康でたくましい児童の育成を図る。（体育）	・児童への食育に関するアンケートにおける「食に関する意識」「生活習慣」での肯定的評価 ・教員アンケートにおける「給食に関する指導」の肯定的評価	A	A	・児童に対する食育のアンケートにおける「食に関する意識」「生活習慣」での肯定的評価が80％以上 ・教員アンケートにおける「給食に関する指導」の肯定的評価も80％以上	・保健給食委員の取り組みや、食育の指導を行うことで、後期にはさらに肯定的評価が増えた。来年度には、給食ステーションとも協力して、意識を向上させていきたい。	・給食中にある程度会話をしながらしっかりと食べられているのは、よい食育の成果だと思う。 ・体力向上旬間の取組により子供たちの体力を維持することができている。ぜひ継続してほしい。
			・全学年の体力テストの結果が、都との比較で2項目以上、上回る。 ・児童アンケートにおける「運動が好き」である児童の割合	A	A	・全学年の体力テストの結果が、都との比較で2項目以上、上回っている。 ・児童アンケートにおける「運動が好き」である児童の割合が80％以上	・他学年と体力テストを一緒に行うことで、お互いにアドバイスをしながら取り組むことができていた。	

Aよくあてはまる・達成率80パーセント以上である。 Bややあてはまる・達成率60パーセント以上である。 Cあまりあてはまらない・達成率は約60パーセント未満である。